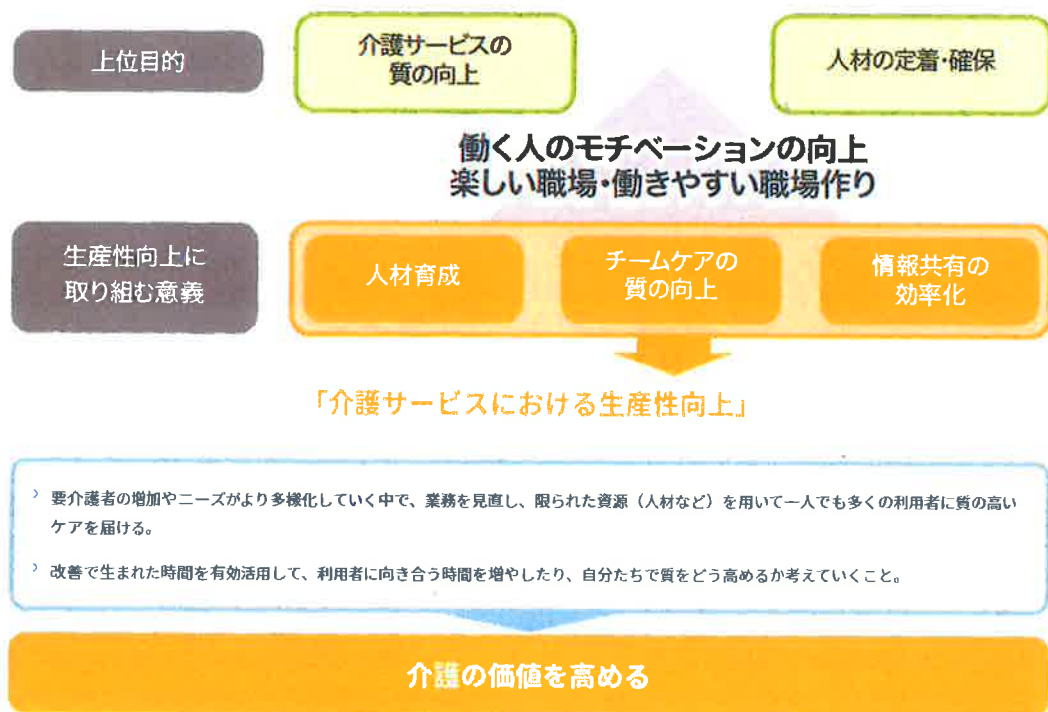


1. 施設における生産性向上の考え方

- 一般的に生産性向上は、職員及び労働時間数あたりの付加価値額を設備投資や労働の効率化などによって向上させるものとされます。
- 生産性は、Output（成果）/Input（単位 投入量）の分数で表しますが、実際の生産性を向上させるためには、「Input」と「Output」の間にある過程「Process」に着目して取り組む重要性が指摘されます。
- 介護サービスの生産性向上とは「一人でも多くの利用者に質の高いケアを届ける」という介護現場の価値を重視し、「介護の価値を高めること」と定義します。例えば、テクノロジーの導入により、記録や申し送りなどの間接業務や見守り、巡回といった間接介助を短縮し、利用者とのコミュニケーションを充実させるなど、直接介助の時間を増やすことでサービスの質を高めることができます。そのような考え方は、利用者について新しい発見をしたり、仕事の意義を再認識したりするなど、自らの仕事へのやりがいや楽しさを実感し、モチベーションを向上させることにも繋がります。



2. 施設における体制と取り組み

- (1) 生産性向上委員会を定期的(1回/6ヶ月)開催することで、職員が施設における生産性向上の考え方を理解しながら、学びを深めることができる。
- (2) 生産性向上委員会のメンバーは、以下のメンバーで構成する。
 - ア) 施設長
 - イ) 事務長及びその者に準ずる代表の事務室職員
 - ウ) 介護支援相談員ならびに専門員
 - エ) 看護師長及びその者に準ずる代表の看護職員
 - オ) 介護統括主任及びその者に準ずる代表介護職員※イ～オのメンバーからプロジェクトリーダーを1名選出する。
- (3) 生産性向上に関する研修を年1回実施する。(外部研修にも積極的に参加する)
- (4) 介護サービス事業における生産性向上に資するガイドラインに沿って、現状の業務から「ムリ」「ムダ」「ムラ」の3Mを無くし、より安全に正確に効率的に行えるよう検討する。
- (5) 7つの視点から分類した業務改善の取り組みを行う。
 - ①職場環境の整備
 - ②業務の明確化と役割分担
 - ③手順書の作成
 - ④記録・報告様式の工夫
 - ⑤情報共有の工夫
 - ⑥OJTの仕組みづくり
 - ⑦理念・行動指針の徹底
- (6) データ分析(エビデンス)に基づいた業務改善の取り組みを行う。
 - ①業務負担改善に関する職員アンケートの実施
 - ②事故発生件数や時間外労働時間等の集計と分析
 - ③間接業務時間、間接介助時間、直接介助時間の分析
 - ④業務の見える化による分析

附則 この指針は令和6年4月1日から施行する。